

政策デザインを進めるうえで覚えておいてほしいこと

ーアジャイルプログラムの今後に向けてー

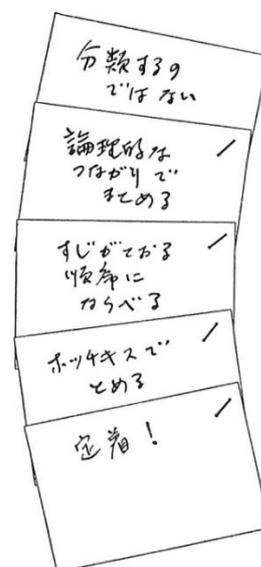
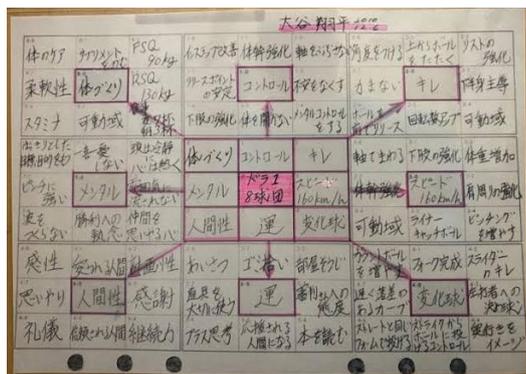
亀井

### 1. おばあちゃんとセブンイレブン(復習)

- 課題発見と解決の基本
- 課題ー真因ー打ち手(3つのパネル)
- ➔ 自分(たち)は薪を持ち、それを元にした仮説を持って、課題に向き合っているか

### 2. 大谷翔平のマンドラ

- 高校一年で作成、「ドラ1 8 球団」を真ん中に8つの課題(ありたい姿ー現状)を置き、それらを実現するための具体的なアクティビティを書き出した
- 8つの課題:体づくり、コントロール、キレ、スピード、変化球、運、人間性、メンタル



### 3. 梅棹忠夫『知的生産の技術』(1969、岩波書店)

- 日記:魂の記録/経験の記録(自分のための業務報告)
- 記憶せずに記録する、フィールドノート(野帳)を記録に
  - 暗黙知の形式知化の一步
- 小札(こざね)法(右図)から KJ(川喜多二郎)法へ
  - 衆知を集める方法
- 『夜はまだあけぬか』(1989、講談社)から知ること
  - 視力を失った筆者が気付いた、知的生産に必要な本当の情報とは・・・

### 4. アントニオ猪木の「道」

- この道を行けばどうなるものか、危ぶむなかれ。危ぶめば道はなし。踏み出せばその一足が道となり、その一足が道となる。迷わず行けよ。行けばわかるさ。

## 5. アセモグル&ジョンソン『技術革新と不平等の1000年史 上・下』(2023、早川書房)

- いまの時代の変化でもっとも気になっていることの一つ
  - オーウェル『一九八四年』とハクスリー『すばらしい新世界』に示されたディストピア
  - オーウェルが懸念したのは本を禁じる人たち、ハクスリーが恐れたのは・・・
- これからの時代の皆さんにとっての武器そのものにつながる話かもしれない

## 6. 賽の河原、そして、コップの水

- 賽の河原=この世とあの世を分ける三途川の河原、死んだ子が親の供養のために河原の石を積み石塔を作るが、どこからか小鬼がきて、それを壊してしまう、死んだ子は初めからまた積み、それが何度も繰り返されること、転じて、無駄な努力の喩え
- ほんとうにそうか、むしろ、それでも、また、石を積み重ねることを再開する心の大切さこそ着目したらよいところではないか
- このコップの水はどのくらいあると見るのか？ まだ/もう？



## 7. 本多勝一『アムンセンとスコット』(1986、教育社、後に文庫化、2021、朝日文庫)

- 犬ゾリなどに見られる周到な準備と緻密な計画、合理的な判断  
vs 馬ゾリ・動力ゾリ・人ゾリに見られる伝統重視、無計画、情緒的な判断
  - 極点まで行ってしっかり帰ってくるというゴール設定 vs 極地への到達がゴール
  - メンバーの創意工夫・小さな改善を取り込むフラットな組織 vs 硬直的な階級型組織
    - 階級型組織は地位の低いメンバーの発見や懸念、アイデアが共有されず、結果的に質の低い意思決定につながってしまう
  - 内発的動機が強い楽観のリーダー vs 努力するが、動機が弱く決断できないリーダー
    - 夢中になる人と頑張る人では累積思考量がまったく異なる、それが根本かも
- いろいろポイントはあるが、いずれも、アジャイルな政策デザインに求められること

## 8. passion for anonymity (無名で仕事を成し遂げる情熱)

